

米国金融政策（2025年7月FOMC）

5会合連続で政策金利の据え置きを決定

2025年7月31日

データ次第ながらも、9月利下げに向けた示唆は得られず

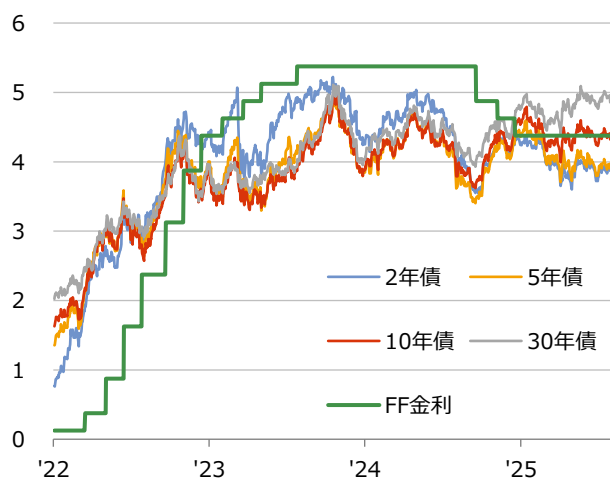
FRB（米国連邦準備制度理事会）は7月29日～30日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを4.25～4.50%で据え置くことを決定しました。また、保有証券の縮小ペースは国債で月額50億米ドル、住宅ローン担保证券で月額350億米ドルを維持しました。FRB理事2名が政策金利の決定に反対しましたが、これは1993年以来です。

声明文では「経済見通しを巡る不透明感は依然高い」とした上で、「2つの使命（物価安定と雇用最大化）に対する両側のリスクに注意を払っている」との文言が維持されました。パウエルFRB議長は「景気抑制的な政策が現在の経済活動を不適切に妨げているような状況にない」と述べるとともに、「インフレのほう雇用より目標から遠い」と指摘しました。また、「9月FOMCについて何ら決定していない」と付け加え、利下げ再開に向けた姿勢が特に強まっている様子は窺えませんでした。

データ次第との政策スタンスに変化はないものの、インフレ抑制を優先する姿勢に大きな変化がなかったことから市場ではタカ派的と受け止められました。FOMC後は金利上昇・米ドル高・株安の反応となり、FF金利先物での9月利下げ期待はFOMC前の68%から47%へと低下しました。米国は日欧と通商合意に至るなど通商政策の着地点が徐々に明らかになる中、目先は関税が実体経済に及ぼす影響度合いに注目が集まります。政策調整時期を柔軟に探る段階にあり、9月利下げの有無は雇用・物価指標次第と言えます。

FF金利と米国債利回り

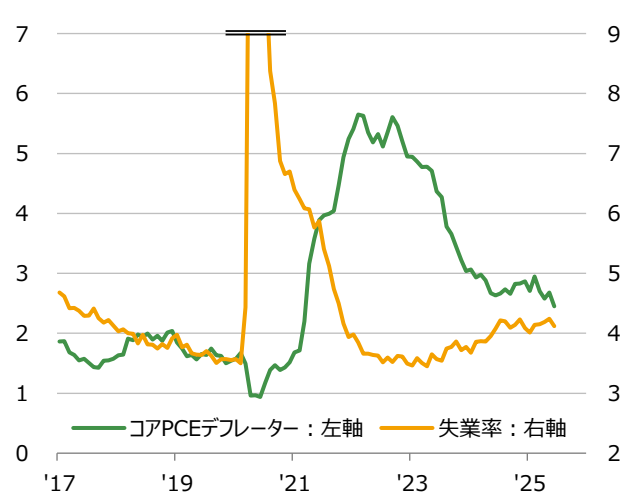
(%) (2022年1月初～2025年7月30日)



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
(出所) ブルームバーグ

コアPCEデフレーターと失業率

(前年同月比、%) (2017年1月～2025年6月) (%)



(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management